

# 小噺・落語入門サロン

## ■ 前座 (今日の話題・話のネタ)

「ヒライ信」ことばあそび

### 落語歳時記シリーズ 3月の落語「厩火事」

髪結いで亭主を食べさせているお崎が、仲人の家に来て「愛想が尽きたので別れたい」という。仲人も、「わかれろ。別れな!」と言う。すると、お崎は亭主の肩を持ち始め、のろける。

呆れた仲人が、亭主のほんとうの料簡を知るための二つの話をお崎にする。一つは唐(もろこし)の孔子の話。孔子の留守中に厩(うまや)が火事になって可愛がっていた白馬が焼死した時のこと。帰ってきた孔子は門弟に「怪我はなかったか」と、気づかい心配し、白馬のことには一言も触れなかったという故事。

二つめは、瀬戸物に凝っている麴町のさる屋敷の旦那の話。集めた瀬戸物を客に見せた後、女房がしまおうとして階段で転んだ時。旦那は「瀬戸物は大丈夫か」しか言わず、女房に「怪我はなかったか」などとは一言も聞かなかった。以後、女房は里へ帰ってしまう。結局、離縁状を書くはめになったという話。

お崎の亭主も瀬戸物に夢中だというので、仲人は亭主が一番大事にしている瀬戸物を落として割ってみろという。もし、亭主がお前の身体を少しでも心配すればよし、瀬戸物のことばかり言っているようなら見込みがないから別れてしまえと言う。

お崎が家に帰ると亭主が夕飯を一緒に食べようと待っている。お崎は頃を見計らって、瀬戸物を出し、よろけて割ってしまう。すると亭主は、お崎の体のことを心配してくれる。うれし泣きして、お崎「嬉しいじゃないか。お前さん、麴町の猿になるかと思ってどれくらい心配したか知れやしないよ。お前さんは唐(もろこし)だよ。ほんとによかった、嬉しいよ」

「お前さん、そんなにあたしのからだが大らかかい」

亭主「あたりめえだ、お前に怪我されてみねえな、あしたから遊んでいて酒が飲めねえや」



不曰子厩  
問馬「退朝焚  
傷人乎」  
論語

## ■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」「手術」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

## ■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「桃の節句・ひな祭り」「卒業」とかけて

次回は2024年4月1日(月)「一年生(新人)」「花見」